

みやぎ観光復興支援センター
みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター
事業概要について

2017年4月1日
みやぎ観光復興支援センター
みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター
センター長 塚原 大介

1. 設立経緯と現在の業務について
 2. 基本的な活動内容
 3. 被災地域での旅行テーマ
 4. 問合せ・マッチングの実績と傾向
 5. 情報の発信について
 6. 教育旅行に関する業務について
 7. 県内被災地域の課題と復興ツーリズムの役割
-

1. 設立経緯と現在の業務について

設立経緯

2011.3.11 東日本大震災発生



2011.10.1 みやぎ観光復興支援センター活動開始
(16名体制・宮城県「みやぎのボランティアツーリズム推進事業」)



2013.8.1 みやぎ教育旅行等コーディネート支援センター活動開始

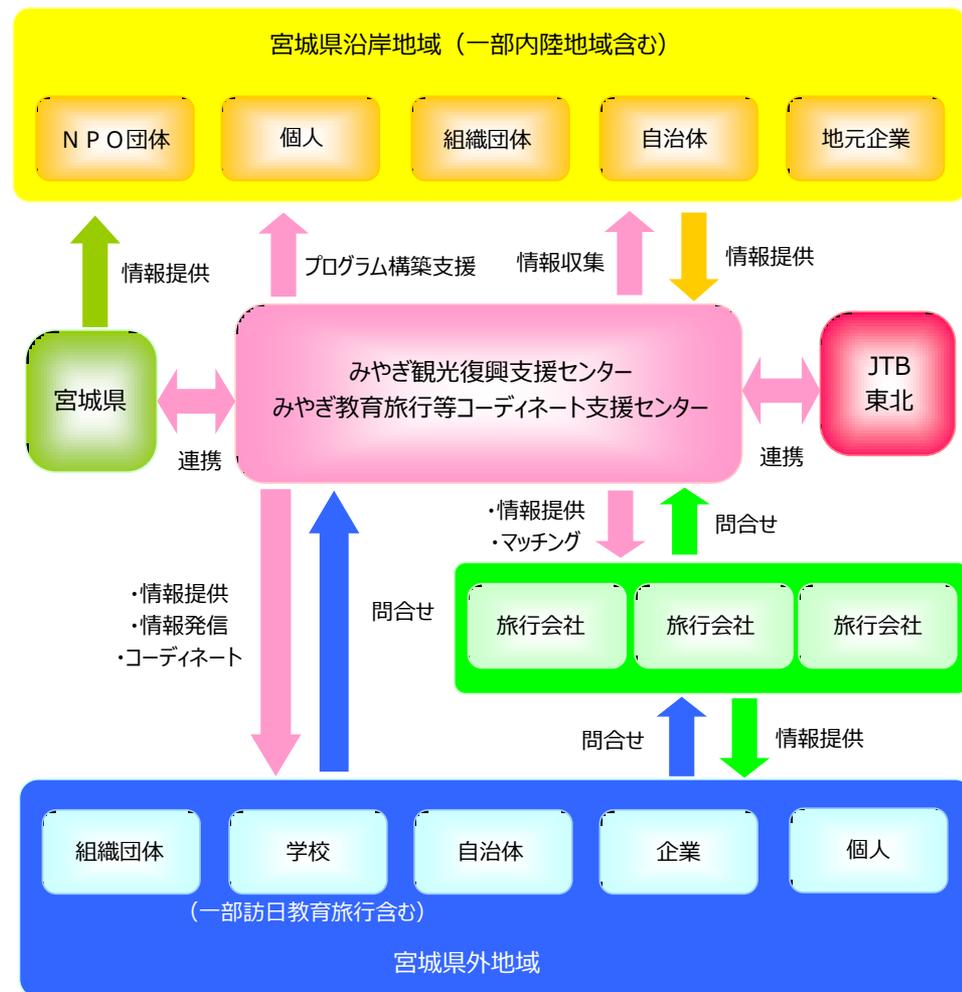


2015.4.1 みやぎ観光復興支援センター、みやぎ教育旅行等コーディネート支援センターの両センターを統合し活動開始
(8名体制・宮城県「県外観光客支援事業」)

2017年度業務分担

渉外・誘客PR業務	5名
情報提供・発信業務	2名
管理・指導	1名
合計	8名

2017年度 事業スキーム



1. 宮城県沿岸地域の情報収集

東日本大震災被災地域の案内プログラムや震災・防災学習プログラム、観光復興に関する情報を収集しています。

2. 宮城県沿岸地域の情報発信

ホームページやブログ、沿岸地域情報集等のツールを通して、収集した情報を発信しています。

3. 問合せ対応とマッチング、コーディネート

旅行会社や自治体、学校等からのお問合せに対応し、必要に応じて現地受入先とのマッチング調整を行っています。

4. 受入プログラムの構築支援

大学等と連携し、震災・防災学習プログラムや新たな体験メニュー等の構築を図っています。

「行きたい」と「来てほしい」の声をつなぎます！

1.語り部ガイドの案内による被災地区視察

被災した各地域において震災の経験や教訓、地域の歴史や文化を語り継ぐガイド活動を行っている。

2.震災・防災学習プログラム

震災の教訓を現地で学び、自ら考えることにより防災・減災の意識を高める学習プログラム。

3.ボランティアや交流等の各種体験プログラム

ボランティア活動やものづくり等の体験を通し、地元住民の方々との交流を図るプログラム。

問合せ対応実績

2011年10月～2017年3月

問合せ対応総件数 4,048件

問合せ内容

【センター設立当初】

- ・「宮城県の被災地でボランティア活動を行って復興に貢献したい」
- ・「被災状況について語り部さんのお話を聞きながら自分の目で見て、感じたい」



【現在】

- ・「震災からの教訓を学ぶことによって、今後の防災・減災につなげたい」
- ・「震災発生直後にボランティアに参加したが、その場所の復興状況を確認したい」

マッチング実績

2011年10月～2017年3月

マッチング総件数 1,406件

延べ人数 58,921名

マッチング傾向

【センター設立当初】

- ・語り部ガイド
- ・ボランティア活動



【現在】

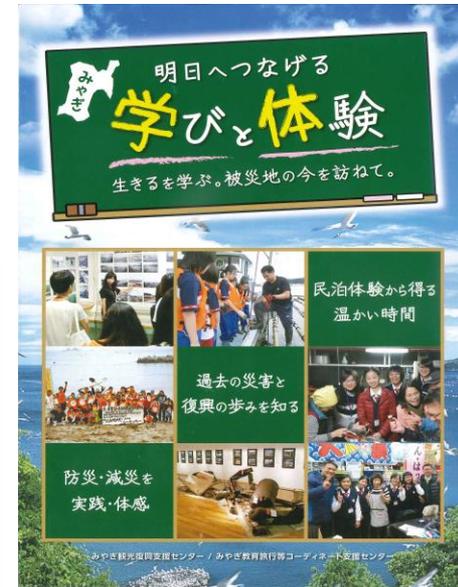
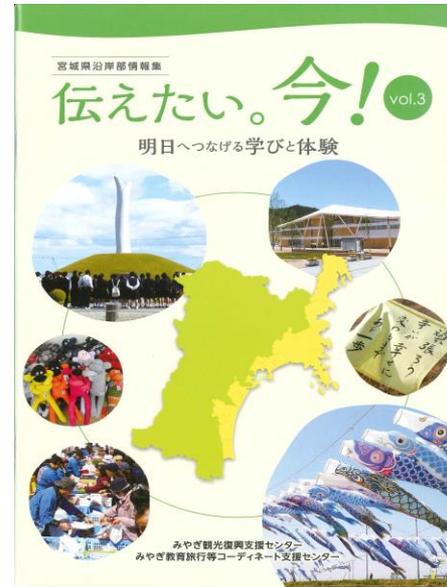
- ・専門的な震災講話（建築系、看護系、まちづくり関連など）
- ・震災、防災学習プログラム
- ・学校や地元住民との交流プログラム

5.情報の発信について

1. ホームページの運営



2.情報集等の作成



3.PR活動

- ・宮城県や東北観光推進機構等の主催する東北教育旅行セミナー参加
- ・学校、旅行会社訪問
- ・台湾での訪日教育旅行セミナー参加

震災・防災学習プログラム

東北福祉大学 「減災・防災プログラム」

福祉教育の伝統校としての経験から「災害に強い人づくり」を目的に、同学で考案された体験型の減災・防災プログラムを実施しています。知識だけではなく「なぜ活動を始めたのか？」など、指導役の学生ボランティアの思いにふれ、自ら社会に関わる大切さも学びます。



東北大学災害科学国際研究所 「みちのく震録伝」

東日本大震災の経験と教訓をテーマに、岩手・宮城・福島の各被災地域の現況と復興状況を映像・写真・研究成果等で解説。小学生から大人まで分かりやすい講義やワークショップをリクエストに応じて行います。講師は災害科学国際研究所の先生方が務めます。



エコキャンプみちのく「防災プログラム」 (国営みちのく杜の湖畔公園内)

「みんなも大きなパワーを持っている!」。災害時に中高生も担い手として活躍できることを、東日本大震災の教訓を基にした「避難所設営」「災害炊事」などの災害体験プログラムを通して学び、減災・防災の基本「自助・共助・公助」の理解を深め、生きる力を育みます。



6.教育旅行に関する業務について

交流プログラム

宮城県松島高等学校観光科 「観光案内」

平成26年に新設された松島高校観光科の生徒たちが日本三景松島の観光名所を案内します。国内の学校に留まらず、台湾など海外からの学校も積極的に受け入れ、外国語で案内するなど、観光案内を通じた多彩な交流が行われています。



南三陸町「民泊体験」

民泊を通して南三陸町の豊かな自然や文化をじっくり体感します。一般の農林漁家で一緒に家事や仕事をして濃密な時間を過ごし、より深い交流を経験します。生徒自身の日常を顧みるきっかけにもなり、人格形成や仲間づくり、感謝の心を育むことにつながります。



◆住民との交流を通し、通常の観光では味わえない「人とのつながり」の大切さを感じられる

◆同世代や民泊先の家族との触れ合いの中で学ぶことで、より身近なものとして心に響く

◆宮城で出会った人々の顔や会話、一緒に過ごした時間が、忘れがたい思い出になる

7. 県内被災地域の課題と復興ツーリズムの役割

新しいまちづくり

仮設住宅から災害公営住宅へ
仮設商店街から本設商店街へ



震災の記憶の風化
震災遺構の解体、撤去

津波被害を受けた沿岸地域の観光客回復の遅れ



復興ツーリズム

- ・震災、自然の脅威を忘れない
- ・次の災害への備えを学ぶ
- ・人から人へ伝えていく



震災の記憶風化防止

交流人口増加による地域活性化

ホームページで情報発信中です！

<http://miyaumi.info/>



掲載情報

- ・被災地域案内や震災防災学習プログラム、ボランティア等各種体験、施設情報など
- ・モデルコース ・スタッフブログ など随時更新中！

